

自主防災組織等の地域防災の人材育成に関する検討会
(第8回(令和2年度第4回))
議事概要

1 日時 令和2年3月19日(木) 13:30~14:30

2 場所 ルポール麴町3階 アメジスト

3 出席者

【委員】(座長を除き50音順)

室崎益輝座長、吉川肇子委員、黒田洋司委員、西藤公司委員

※阪本真由美委員、宗片恵美子委員、永田宏和委員は欠席(永田委員の代理として小倉丈佳氏出席)

【オブザーバー】

公益財団法人日本消防協会

4 概要

(1) 開会

(2) 議事

① 「研修教材(案)を活用した研修会」の報告及び第7回検討会における教材に対する委員からのご意見と対応について、事務局より、資料1、資料2に基づき説明の後、意見交換。
概要は以下のとおり。

○ 資料3-3(教材1限目) p28掲載の事例は、住民で支え合うことにより、土砂災害発生前に住民が避難することができたという事例であると思われるが、タイトルが「倒壊家屋からの救出」となっており、事例の内容に沿っていない。事例に沿ったタイトルに変更したほうがよいのではないか。

○ 教材3限目単元「住民の防災意識の向上」の所要時間が資料3-2と資料3-3(教材3限目)とで異なっている(資料3-2では10分、資料3-3では15分)。住民の防災意識の向上の重要性から考えて、15分に統一したほうがよいのではないか。

○ 「カスタマイズ」という文言はあいまいで、誤解を招きやすいので、「変更」などのように分かりやすい日本語表記としたほうがよいのではないか。

○ 「~町」といった地名は「~マチ」「~チョウ」など複数の読み方があることから、ふりがなをつけたほうがよいのではないか。

② 検討会報告書（案）について、事務局より、資料3に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

○ 資料3（検討会報告書（案））p 3最下段「自主防災組織は災害時だけでなく、日頃からも多くの活動を行っている」の箇所は、「多くの活動を行うことが期待される」といった表現にしたほうがより教材の趣旨に沿うのではないか。

○ 資料3（検討会報告書（案））p 7下段「実際の研修に当たっては、このプログラム例を一助として」の箇所について。この箇所の趣旨は、地域の実情に合わせ、半日コース、1カ月コース、半年コース、1年コースといったように幅広い期間での活用の仕方があることを説明することと思われる。1日のうちの何時間か研修するというだけではなくて、もっと時間をかけて段階的に研修を積み重ね、理解を深めていくような活用の仕方もあることを例としてあげたほうがよいのではないか。

○ 資料3（検討会報告書（案））p 10「なお、今後の研修に当たっては、研修を実施する担当者等が、自主防災組織の活動状況や地域の状況等に応じて、「研修プログラム例」及び「研修教材」の追加、修正等を行うことを想定している。」について。研修は今後自分たちで研修をやろうという方も受講されることから、市町村の職員だけではなくて、いろいろな方にもこれを使って自分の教材にしてもらえればよいといった趣旨を記載してはどうか。また、研修はその人たちがよりわかりやすく、いい講義ができるということも目指しており、そういう観点からも自発的にいろいろ教材の工夫をしてほしい趣旨の記載もあるとよい。

③ カリキュラム、プログラム例、教材等の公表予定等について、事務局より、資料4に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

○ カリキュラム、プログラム例、教材等の公表後、講師派遣の補助をするなどのサポートは行っていくのか。

〔次年度、消防庁にて研修会の実施などのサポートを行っていく予定。〕

○ 防災士会や民間団体等の防災教育に熱心ないろいろなグループが、このような教材を使って研修を行う等の取組みを行って頂くと、より広がっていくのではないか。

- カリキュラム、プログラム例、教材等の公表後は、教材等を活用した各地域の取り組みや運用の仕方などが集約され、共有されていく仕組みができるとういのではないか。

- 実際に研修を行った方たちの情報交換の場を設けるとよいのではないか。いろいろな地域での実施事例をみることで、活用の仕方の幅を広げることできるし、自分流にアレンジして活用してもらうことへの後押しにもなるのではないか。

以上